



Title	Gallia 55号 あとがき/奥付
Author(s)	山上, 浩嗣
Citation	Gallia. 2016, 55, p. 218-218
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/61959
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

あとがき

アニエス・ディソン先生は、34年間もの長きにわたって、大阪大学文学部ならびに文学研究科にて、教育と研究に力を注がれました。温かく朗らかなお人柄と、明晰判断的な授業、懇切丁寧な論文指導については、本号所収のエッセーで各位が書いておられるとおりです。教え子を愛し、日本を愛し、フランスから多くのご友人を招いて学生との交流の機会を作られました。また、フランス現代詩研究の第一人者として、日欧米の各所で多数の講演を行い、膨大な数の学術論文を公刊されました。ご退職後はフランスに本拠を移されるとのことです。ディソン先生のこれまでのご尽力に心から感謝申し上げるとともに、今後ますますのご健勝を祈念いたします。

なお、和田会長による本号巻頭言にもあるとおり、ディソン先生の長年の研究の集大成となるご著書 *Au tournant du siècle : essais sur la poésie française de l'extrême contemporain, 1980-2015* が、大阪大学出版会からまもなく上梓されます。重要な詩人（ジャック・ルーポー、アンヌ・ボルチュガル、クリスチャン・ブリジャン、関口涼子など）について、多くの作品の解説を通じて紹介すると同時に、現代フランス詩のさまざまな潮流に対するパノラマ的展望を提供する本です。この分野の専門家のみならず、入門者にも有益な書となるでしょう。

4月には、ディソン先生の後任として、エリック・アヴォカさんが着任されます。日本人学生の指導経験が豊富で、革命期を中心としたフランス文学・思想の優れた専門家です。大阪大学での教育に並々ならぬ意欲をおもちです。本会の活動も大いに盛り上げてくださることでしょう。

末筆となりましたが、本号執筆者のみなさま、とりわけ本会外から特別にご寄稿くださいました関口涼子さん、支倉崇晴先生、小柳公代先生（掲載順）に厚く御礼申し上げます。また、論文査読に当たられた編集委員諸兄、本号の編集作業と本会運営の実務を担当してくれた学生委員諸君、エッセーのフランス語添削にご協力くださったクリストフ・ガラベさんに感謝いたします。

（山上 浩嗣）

追記：編集委員会のメールアドレスを次のように変更しました。どうぞご注意ください。

1953gallia@gmail.com

GALLIA LV

2016年3月1日印刷・3月5日発行

編集発行者

大阪大学フランス語フランス文学会

代表者 和田 章男

〒560-8532 豊中市待兼山町1番5号

大阪大学文学研究科・文学部フランス文学研究室内

tel. & fax : 06-6850-5117

e-mail : 1953gallia@gmail.com

URL : <http://www.gallia.jp/>